

事業所名 グループホームのどか
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成16年4月7日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 病院事務長
資格・経験 特別養護老人ホーム生活相談員歴3年以上・臨床工学技士資格取得
B:現職 民間教育機関講師
資格・経験 介護支援専門員登録・ホームヘルパー2級・難病患者ホームヘルパー研修終了

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

- 1 自由で開放的で利用者と職員が「生活」を楽しんでいると感じられる施設であった。
- 2 代表者、管理者の痴呆介護に対する情熱と思い(理念)に基づき、民家改造型である建物の空間と雰囲気を最大限に活用し、施設などが一切ない生活環境を作り上げ、人として当たり前の思いを尊重した介護方針から「切れ目のない生活時間」と「家庭生活の延長」を実現している施設であると感じた。
- 3 痴呆介護に対して医学的な視点からも精神的な面からも、入居者が安心できる生活環境と介護・援助が考えられ、「家庭」を意識した「介護と施設」の管理運営が記録からよくわかるように整理されていた。
- 4 代表者を先頭に、E型デイサービス事業などの運営経験から、在宅における痴呆介護の限界と課題点を踏まえた上で、グループホームの役割を追求する真摯な姿勢や思いが介護サービスに反映されていた。
- 5 職員が利用者と馴れ合うのではなく自然な「見守りと介護サービス」をしていることが、利用者の表情や家族との会話から感じ取れた。
- 6 精神的にも肉体的にも拘束感はなく、穏やかな雰囲気の中で管理者による施設の管理運営ができています。

特に改善の余地があると思われる点
特になし

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か ・利用者がその人らしく生活しようとする「人としての当たり前の思い」に応える介護をめざし、「家庭生活」の延長線上での介護サービスの提供を目指している。木造民家を改造した施設は周りの民家に融和しており、施設内の雰囲気も施設として作られたものでなく、職員と利用者の関係も生活感を感じさせ、理念の実践が行なわれていることが見て取れた。 ・職員もタイムスケジュールに追われることなく、入居者と一緒に生活を楽しみながら「人間対 人間」の関わりをなかでの痴呆介護を志して、「痴呆」という疾患を生活の面から理解し入居者と向かいあって介護する姿勢が感じられる施設であった。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か ・普通の生活を意識したりビングルームは南向きで天窓があり、自然光による採光ができています。自然な明るさが「家庭」そのものの雰囲気をかもしだしており、一戸建ての民家を改築したという利点を最大限に活用しながら、入居者が落ち着ける空間にしてあった。 ・木造建築や畳の部屋であるが、清掃は行きとどいて生活臭などは無く、気をつけて清掃を行なっている効果が現れていた。部屋等の生活空間に施錠されたところは無く、利用者が管理されているという拘束感を感じることなく自然に自由に生活できる雰囲気であった。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か ・「痴呆」という疾患を入居者ひとりひとりの個性と考えると介護サービスの提供をおこない、個人の尊重に努めていることが感じられる施設であった。 ・家族同士の信頼関係をグループホームに実現させるべく、単なる業務の遂行ではなく利用者の人生の生活歴などを理解して、入居者と職員の繋がりと関わりを大切に努力がされていることが、施設記録や会議記録から確認できた。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 ・職員同士の話し合いや各種の詳細な記録を通じて問題点の発見に努めている。第三者から見ても日頃の状況が読み取れる記録である。 ・現状に満足することなく、よりよい介護サービスのあり方を目指しており、常に改善していこうとしている姿勢がみられる。 ・人と人とのつながりを大切にして、代表者と管理者が職員の力量をしっかりと把握した上でサービスの提供を心がけており、サービス向上のために研修会にも積極的に参加するなど、向上心が伝わってくる。 ・ホームの弱点(建物構造など)を理解した上で介護する姿勢と創意工夫する姿勢が感じられ、代表者、管理者、職員の自己研鑽や入居者本意の生活実現のための努力が重ねられていることがわかる施設であった。		